

8月5日 言葉遊び

イカの干物を「するめ」とも「あたりめ」とも呼ぶ。こうして並べて表記するとよく分かるが、「する」には勝負事に負けるイメージがあるため、それを嫌って「あたり」に言い換えたのが「あたりめ」だ。このように、忌み嫌う言葉を、逆のめでたい言葉に言い換える言葉遊びが、古くから日本にはある。

会の終わりを「お開き」というのもその一つ。男性なら、理容室で「髭をあたりましょうか」などと声をかけられた経験があるのでは。

では、ここでクイズを一つ。猿のことをエテ公と呼ぶのはなぜ？

正解は、猿は「去る（出ていく、手元から離れる）」をイメージさせるので、手元に入ることを意味する「得手」に置き換えて、親しみを込めてエテ公と呼んだ。また、得手には「得意」「人より勝る」という意味があり、「まさる」と「猿」を掛けたとも。

昔はこうした知的な“遊び”が“新語”を生んでいた。私のような昭和人間には「ゲキオコ」や「キュンです」のような新語（もうすでに古いかな）より、風情があるように思えるのだが。

